

事務事業名	交付金活用道路修繕事業		所属部	建設部	所属課	建設工務課
総合計画体系	政策名	〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち〈定住環境〉		所属G	公共土木G	課長名 松村直樹
	施策名	〈12〉道路の整備		担当者名	今岡亮	電話番号 0854-40-1063 (内線) 2473
	目的・対象	市民	意図	市内及び市外へ安全で便利に移動できる。		
	基本事業	〈035〉道路の維持管理		予算科目	0:140:0:2 項 目 中事業	大事業名 道路施設管理事業 中事業名 交付金活用道路修繕事業
	目的・対象	道路利用者	意図	安全に移動できる。		

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
道路利用者	市内を安全で迅速に移動できるようにする。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (H26 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	
・道路ストック点検結果に基づき、道路維持管理計画を見直し、計画的な修繕を実施する。 ・平成28年度に実施した落石・法面緊急点検結果に基づき、緊急性の高い箇所から対策を実施する。 ・路面性状調査を基に舗装修繕を実施する。 ・小規模付属物台帳を整備し効率的な維持管理を行う。	
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R5年度実績(R5年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
・路面性状調査・小規模附属物台帳作成業務 ・法面調査業務	・H26年度に道路ストック点検を行った。道路法一部改正に伴い、概ね10年に1度点検をしなければならない為、R元年度～R6年度において2巡目の点検を行う。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (計画)
ア 生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	63.9	66.8	63.7	63.7
イ 生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%	68.4	66.5	59.5	59.5
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)		② コストの推移		単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
【委託料】路面性状・附属物 10,039千円 法面調査業務 4,961千円 【合計】 15,000千円	財 源 内 訳	国庫支出金	千円	20,032	21,636	8,549	26,790	
		県支出金	千円					
		地方債	千円	10,700	10,600		13,600	
		その他	千円					
		一般財源	千円	4,694	6,245	6,451	7,310	
	事業費計		千円	35,426	38,481	15,000	47,700	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	・路面性状調査及び小規模附属物調査の結果を反映し、舗装及び道路附属物の修繕計画を作成した。
② 事業実施するうえでの課題	・道路施設の老朽化が進み、補修や更新、安全対策が必要な箇所が増加している中、計画的かつ効率的な道路の維持管理を確保するため、メンテナンスサイクル(点検・診断・措置・記録)を構築し、ライフサイクルコストの縮減を図る必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・道路維持管理計画(H24策定)に基づき、毎年ローリングを行い、一定規模以上の維持修繕は本事業により修繕を図っている。 ・メンテナンスサイクル(点検・診断・措置・記録)を構築し、ライフサイクルコストの縮減を図るため、次期道路維持管理計画及び各道路施設の個別施設計画を策定し、各道路施設の修繕優先度や実施方針を定め、計画的かつ効率的な修繕を実施していく。 ・防災・安全社会資本整備交付金を活用することで、修繕予算を確保し、計画的な修繕の早期対応を目指している。